

シェルドン・グラショウ氏

米ボストン大名誉教授



「今後何十年にわたり、日本が基礎物理の中心地になることは間違いなし」とILCの意義を訴えるシェルドン・グラショウ氏＝東京都内

断念は米と同じ過ち

「日本が多額の建設費による投資効果が議論になつてゐる。なぜ立地すべきか。」

「米国ではクリントン政権時代に、超電導大型加速器SAC計画を中止した。これが米国の基礎物理、高エネルギー分野に決定的な打撃を与えた結果となり、その後も加速器をつくらうという計画は出ていない。日本が今回の非常に素晴らしい機会を断ることは、

「欧州合同原子核研究所(CERN、スイス)で見つけたものが本場にビッグス粒子なのか。特性も測定できていないので、それを確認することがILCの役割の一つ。ほかにもさまざまな驚くべき発見をもたらす可能性がある。今後何十年にわたり、ほかの競合する装置が全くできない領域の研究が可能になる。そのような国際的な研究所が建設されるという機会を得ている日本は、非常に幸運な立ち位置にある。」

「例えば(ハリッシュユ氏がノーベル賞を受賞した)米国のLIGOは、ILCに比べて直接的な経済波及効果は少ないが、価値ある技術を生み出し、さまざまな産業で活用されている。日本が米国や中国など競争相手に囲まれる中で、技術の最先端にとどまり、勝ち続けるためにも何としてもやらなければならない計画だ。」

「各国政府に今後ILC実現の働き掛けをしていくか。」「能力、体力が続く限りやっていきたい。ただ今回は、日本政府が意思決定する最後の機会だと思つて、現存の機会にやるべきだ。」

「ILCがもたらす未来について、一般の人にも分かりやすく教えてほしい。」

「今、日本は基礎科学の分野で多くのノーベル賞受賞者を出さなく、輝かしい時代を迎えている。海の内側では賞を取れない人たちが嫉妬を感じながら見ている。この強い状態を維持するためにやるべきだ。建設されれば、日本が今後何十年にわたって基礎物理学の中心地になることは間違いない。世界中の人たちが集まってくるし、CERNのように観光名所にもなる。日本の科学、物理にとつて素晴らしい時代がこれだ。驚きはない。そうなることを先に広がつていく。」

シェルドン・グラショウ氏 32年、米ニューヨーク生まれ。85歳。ボストン大名誉教授、ハーバード大名誉教授。素粒子の「標準理論」への貢献で79年にノーベル物理学賞受賞。標準理論の先にある物理の探究に向けてILCの実現を応援している。